

(仮称) 産業ミュージアム基本構想 概要版

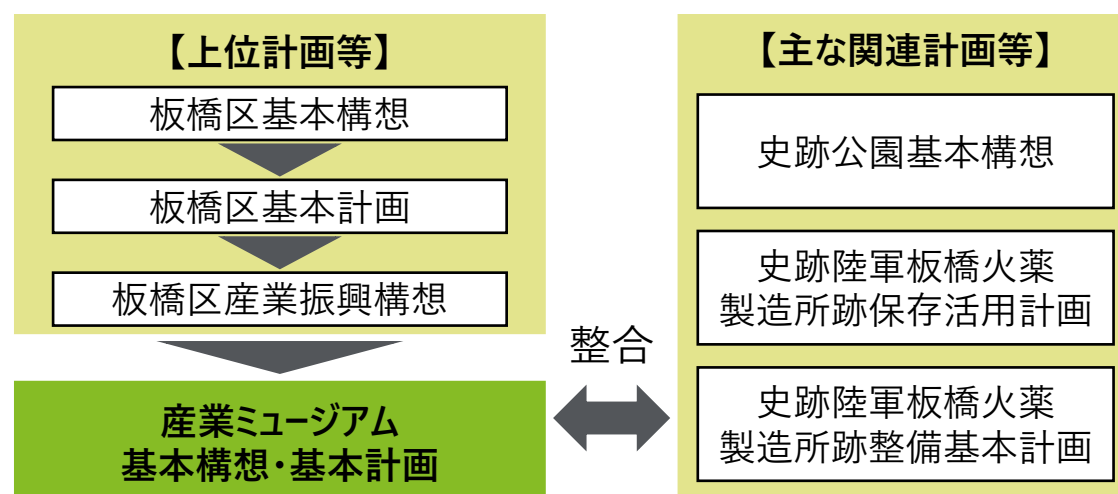
第1章 基本構想・基本計画の策定背景

(1) 策定目的

- 板橋区史跡公園（仮称）（以下「史跡公園」という。）基本構想では、史跡公園の整備と歩調を合わせながら、旧理化学研究所板橋分所（以下「旧板橋分所」）の建造物の一部を「(仮称)産業ミュージアム（以下「産業ミュージアム」という。）」として整備していくことが示された。
- 整備にあたっては、当該建造物が持つ文化財的価値・歴史的ストーリーに加え、今後の区産業の方向性及び整備予定地の現況などを念頭に置きながら、**板橋の産業ブランド向上と産業成長に資する**産業ミュージアムの基本理念・コンセプト・具体的な機能等を整理していく必要がある。
- 令和7年度では、学識経験者、区民や関係団体等の意見を聴きながら、「**産業ミュージアム基本構想・基本計画**」を策定し、計画的に産業ミュージアムの整備を進めていく。

(2) 基本構想・基本計画の位置づけ

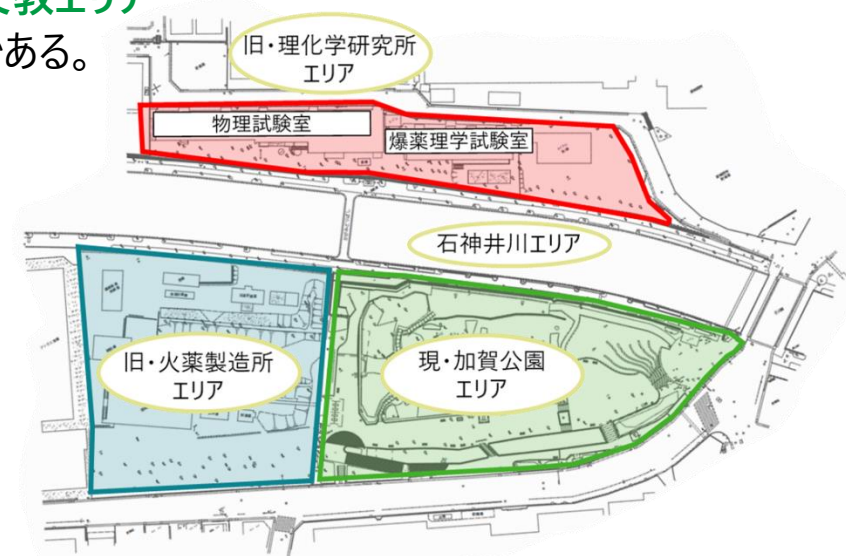
- 板橋区基本計画や板橋区産業振興構想などの上位計画に加え、史跡公園の整備に係る関連計画等との整合性を図りながら、基本構想・基本計画を策定する。



(3) 産業ミュージアムを取り巻く資源・価値

①整備地の立地環境

- 史跡公園の整備予定地は、板橋区の東南部にあたる**加賀地域に位置**している。
- 旧板橋分所の建造物は、加賀公園と石神井川を隔てた対岸に立地しており、**自然豊かな静寂感が魅力**の1つとなっている。
- 産業ミュージアムの整備については、旧板橋分所の建造物のうち、「**物理試験室**」と「**爆薬理学試験室**」を活用する。
- 加賀地域は多くの教育・公共施設を有しており、居住人口に占める0～19歳の割合が区内で最も高く、**区内屈指随一の文教エリア**である。



(仮称) 産業ミュージアム基本構想 概要版

第1章 基本構想・基本計画の策定背景

② 整備地の変遷

戦前

- 江戸時代に加賀藩下屋敷が置かれたこの地には、明治政府が初の近代的な火薬製造所を設置したことを契機に、その周辺の東京北西部には、光学兵器を製造する多数の軍需工場群が形成
- 建物に爆薬の取り扱いに適した構造も認められ、文化財的価値を保有

戦後

- 陸軍解体に伴い、跡地に現在の公益財団法人野口研究所が入所、理化学研究所「板橋分室」が開設
- 仁科芳雄博士が宇宙線研究を展開するとともに、日本の先進的科学技術の研究拠点として、その研究成果を世界に発信
- 戦前に集積した光学産業は平和産業として発展し、「ものづくりの板橋」を形作る原動力の1つとして寄与

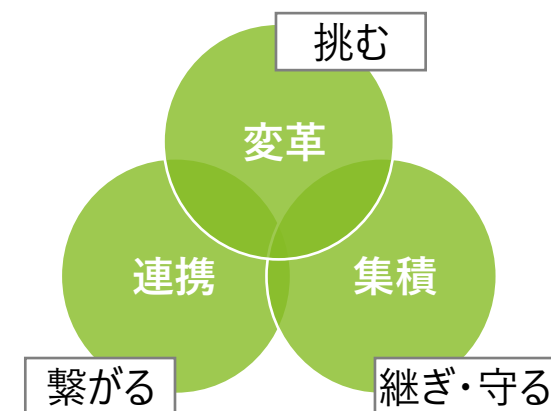
近年

- 近代的な火薬製造所と研究所の歴史的価値が認められ、加賀公園、旧野口研究所、旧理化学研究所の敷地が平成29年に国史跡に指定
- 区は同年史跡公園基本構想を策定し、史跡公園の整備に向けた取組を推進

③ 区産業の現況と将来像

- 工業専用地域を持つ**都内有数の工業都市として“ものづくり企業”が集積**している。特に「陸軍板橋火薬製造所」の設置を契機に集積が進んだ**光学・精密機器産業は、高い技術力を**保有している。
- 区内全域に商業が広がっていることに加え、都内で貴重な農地も保有しており、多様な産業が共存している。
- 区で策定中の「板橋区産業振興構想2035」では、「変革」「連携」「集積」を基本的な視点として**成長志向の産業育成に注力し、ブランド創造に着眼した新たな将来像**を掲げる。

「板橋区産業振興構想2035」※で掲げる
基本的な視点と将来像



2035年の将来像

新たな発見に出会える、ブランド創造都市

※「板橋区産業振興構想2035」は令和7年7月9日現在、策定中

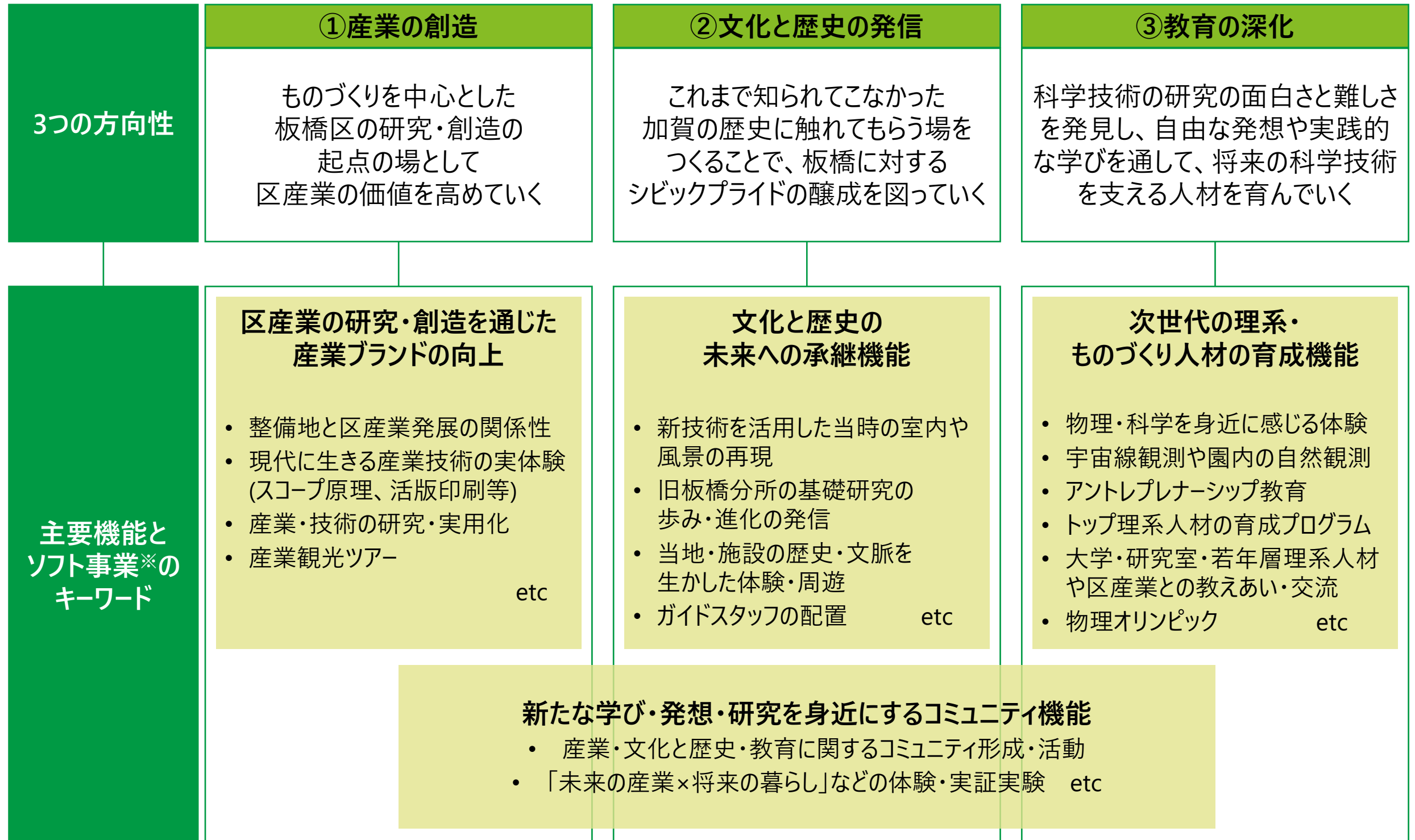
(仮称) 産業ミュージアム基本構想 概要版

第2章 (仮称) 産業ミュージアム基本構想

基本理念	当地の歴史に紐づく区産業の発展や研究の軌跡の発信と体験を通じて 板橋の産業ブランドを向上させるとともに、次世代の産業を担う人材や理系人材を育む拠点とする		
コンセプト	～加賀の歴史が紡ぐ、創造と知の起点～ 新たな学び・発想・研究がはじまる場所 - 歴史を知り、未来を体感する起点 - 好奇心を引き出す発見と探求の起点 - 新たなつながりと挑戦が生まれる起点		
着目する 歴史的背景	- 区産業が発展する契機の1つとなった「工都板橋」の淵源 - 近世から現代に至るまで最先端の研究・実用化が行われた地域	- 加賀藩前田家の下屋敷の一部であった地 - 近代的な火薬研究所時代の痕跡 - 理研研究者が研究を重ねた足跡	- ノーベル物理学賞受賞者の研究室 - 先進的な科学技術研究が展開された日本物理学界の中心地
3つの方向性	①産業の創造	②文化と歴史の発信	③教育の深化
	ものづくりを中心とした板橋区の研究・創造の起点の場として区産業の価値を高めていく	これまで知られてこなかった加賀の歴史に触れてもらう場をつくることで、板橋に対するシビックプライドの醸成を図っていく	科学技術の研究の面白さと難しさを発見し、自由な発想や実践的な学びを通して、将来の科学技術を支える人材を育ていく

(仮称) 産業ミュージアム基本構想 概要版

第2章 (仮称) 産業ミュージアム基本構想



※黒太字が主要機能、箇条書きがソフト事業のキーワード。具体的なソフト機能は、今後「(仮称) 産業ミュージアム基本計画」で詳細検討